



# PRIMITIVE HUT

憩いの森の憩いの場



## 美しい自然との出会い

「立田山憩の森」は熊本市民の健康やふれあいといった都市生活の質を支える貴重な自然緑地である。ここに美しい自然環境と調和し、人と自然を結ぶ、根源的な居場所を創造する。森全体は環境教育の場として野外博物館となっており、その中で公衆トイレは貴重なインフラである。トイレ機能を満たし、かつ、憩の森における安心して気持ちの良い「居場所」であることを心がけた。また、「お祭り広場」はアスレチックや湖を有する開放的な原っぱであり、市民有志のトレイルや子供達の運動学習など多様な活動が展開される。広場へとファサードをつくり、森と広場に抜けるようなヴォイドを穿ち光・風の通り道としながら、人々の活動のリズムを受け、風景との出会いを創出するように、建築を配置した。

# パブリックトイレから パブリックスペースへ

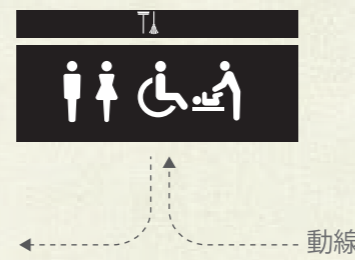
嘗てのパブリックトイレは必要最小限の機能を満たす箱であり、衛生上の観点から汚い等の4Kのイメージがあったが、近年では安心清潔で全体が見通せる上に、乳幼児や子供のスペース、化粧室といった質の向上が顕著である。

ここで、そういった新しいトイレを「居場所」として捉え直す。メンテナンス機能もオープンにし、各プライベート空間の境界や隙間空間を積極的にパブリックスペースへと接続するモデルを提案する。

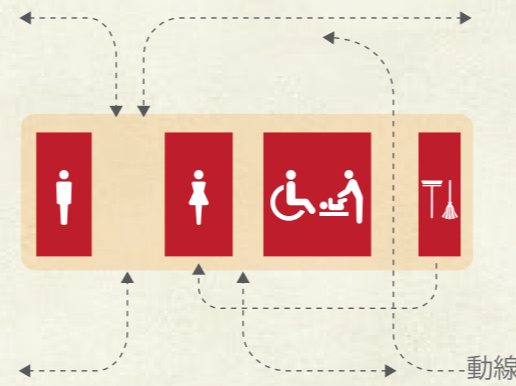
## 見通しの良い活動 衛生的なメンテナンス

上記のモデルを本敷地に当てはめる。即ち、東の広場と西の森を視覚的にも空間的にも繋ぐような、トイレ空間の配置によって「居場所」をつくり出す。

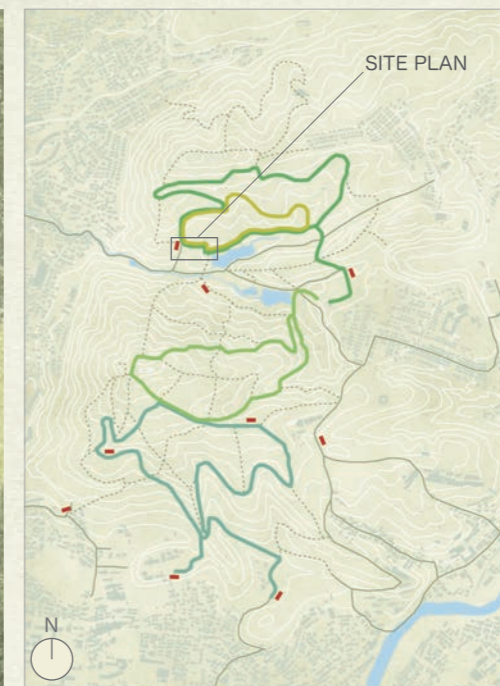
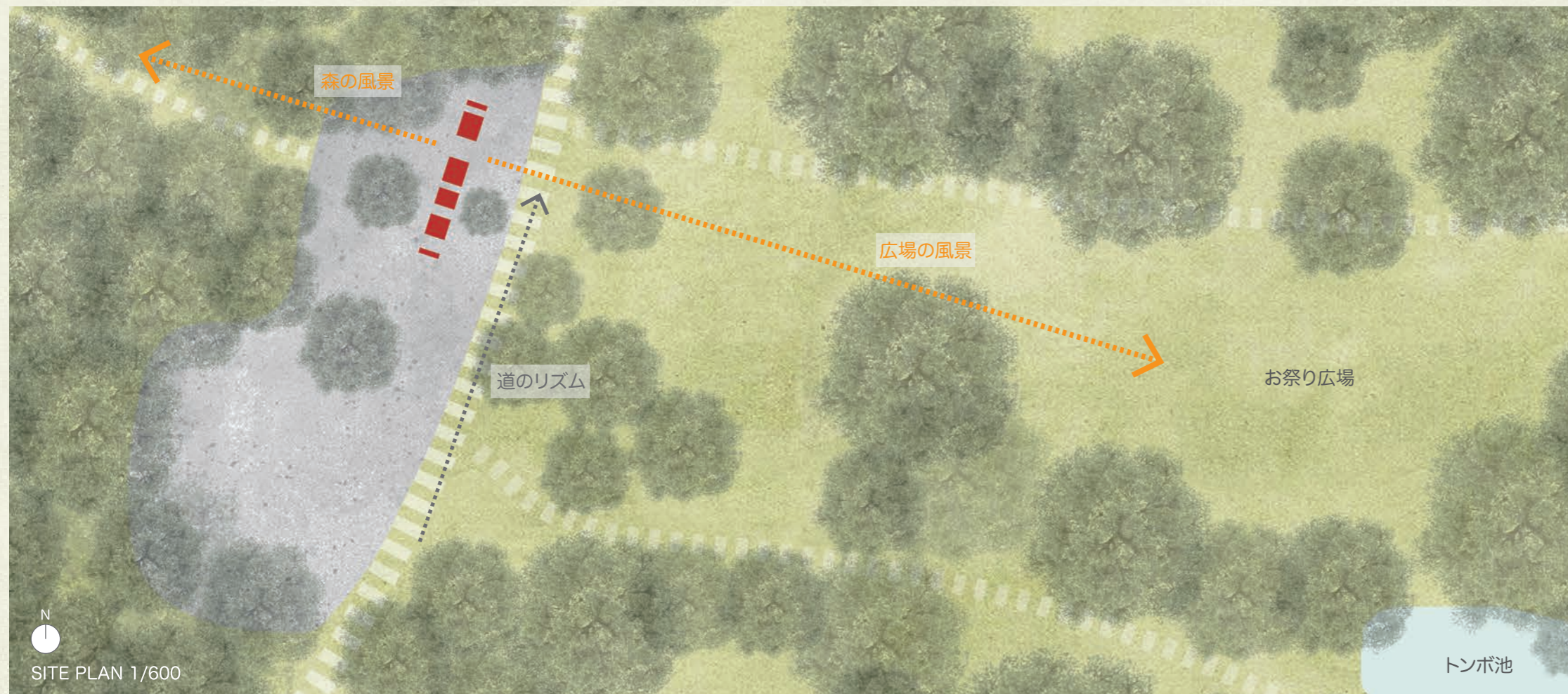
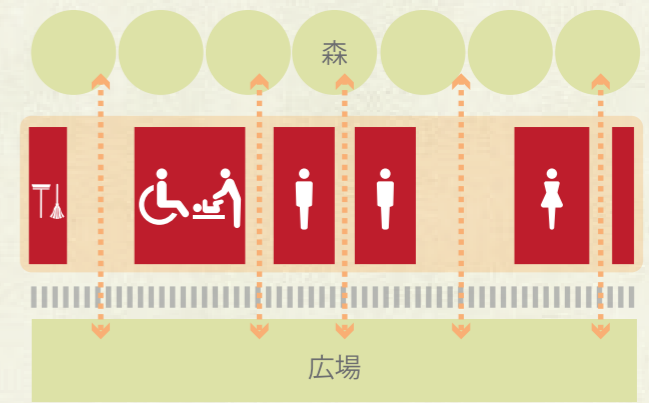
WC = 4K  
かつては裏の空間



NEW WC = PLACE  
新しいトイレは「居場所」



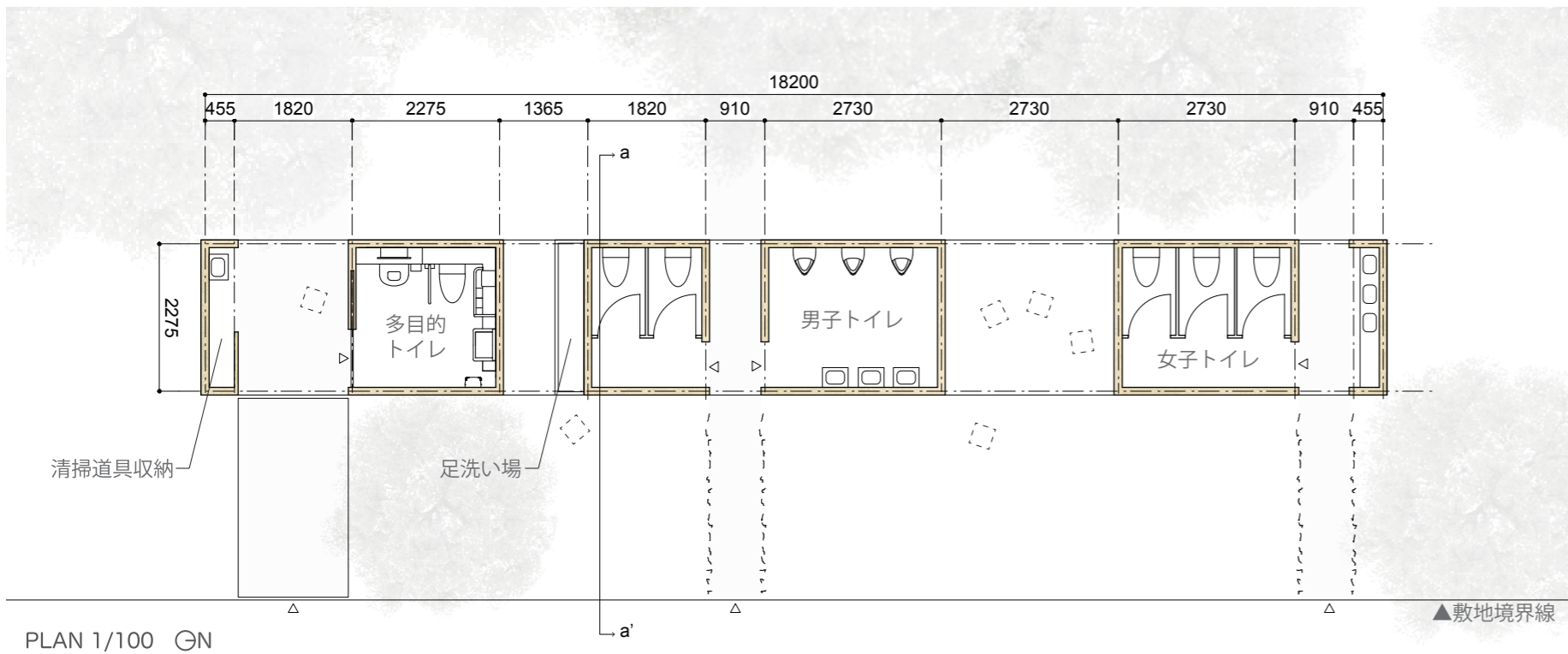
THIS PROJECT  
自然の中の「居場所」



- 森林ミュージアム立山憩いの森
- 公衆トイレ
  - A: 野鳥と古の森コース
  - B: ドングリの森とトンボ池のコース
  - C: 学習の森コース
  - D: 野鳥とシイの森コース
  - 歩道
  - 車道

## 野外博物館のトイレ

森全体が野外博物館となり、4つの観察コース、トレイル、広場、アスレチック、展望台、池、といった運動・学習の為の資産が豊富である。そのような野外博物館の一部としてトイレを捉え、他のトイレ群も含む森の全体性のある将来ビジョンにも視野を広げられる。



## シンプルな構造、リズムあるプロポーション

木造軸組によるシンプルな構造とし、標準的なモジュールに合わせて、秩序立て、美しい比例を検討した。必要機能を満たすボリュームと、自然環境と繋がるヴォイド、そのシンプルな組み合わせのみによって、広場に佇む魅力的なシンボルとなるようにデザインした。この建築のプロポーションは広場や道に向けてリズムをつくり、トレイルや運動学習の心地よいテンポに呼応する。

